

京都大学附属図書館所蔵 国宝 今昔物語集に迫る



京都大学附属図書館が所蔵する
国宝今昔物語集。今回はその貴
重な国宝に迫ります。(紅梅)

京都大学にある今昔物語集

京都大学附属図書館所蔵の今昔物語集は、鈴鹿本と呼ばれている今昔物語集の写本です。現存する写本の中で最も古く、かつ現存の写本の元になっているといわれるもので、平成8年に国宝に指定されました。

この今昔物語集は元々、吉田神社の神職を務める鈴鹿家の当主であった鈴鹿連胤が奈良で入手し所蔵していたものでした。それが、京都大学附属図書館に鈴鹿家の子孫が勤めていた縁で京都大学附属図書館に寄託されました。その後寄託解除の申し出がありました。協議を行った結果、責任を持って修復して研究のために役立てるという条件で京都大学附属図書館に寄贈となりました。

現在は、専用の空調設備によって常に温度や湿度を一定に保つ特別な部屋で他の重要文化財と共に大切に保管されています。



▲現在はこの箱の中で保管されています

ネットで見る今昔物語集

国宝今昔物語集の現物を見ることはできませんが、所蔵全冊が電子画像化されており、京都大学電子図書館のホームページ上で今昔物語集を閲覧することができます。原本の画像に活字化されたテキストが添えられていて、読みやすくなっています。

芥川龍之介の「羅生門」や「藪の中」のモチーフと考えられている作品などが収録されています。一度ホームページ上で今昔物語集をご覧になってはいかがでしょうか。

またこのホームページでは、今昔物語集の画像だけでなく、伊勢物語奈良絵本や天正遣欧使節肖像画など、有名な資料の画像も見ることができます。



▲京都大学附属図書館所蔵の今昔物語集、全9冊

京都大学電子図書館貴重資料画像ホームページ

<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/>

今昔物語集とは

今昔物語集は、平安時代後期に編纂された説話集です。全31巻(ただし8巻・18巻・21巻は欠けています)に1,000以上のインド・中国・日本における短編物語が収録されています。話の内容は仏教的な教訓にとどまらず、実にバラエティに富んでいて、平安時代の説話文学の集大成といえることができます。



▲実際に閲覧している様子。芥川龍之介の「羅生門」のモチーフとされる、第29巻「羅城門登上層見死人盗人語第十八」